

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標 「自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる」 ～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～

教育方針 1 学力の充実を図り、希望進路を実現させる 2 学校行事・部活動を充実させる 3 基本的な生活習慣を確立させる 4 安心できる学校生活を確立させる

2 中期的目標

1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立

(1) キャリア教育を充実させ、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、具体的な夢を描かせる。

ア 3年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。

(2) 将来の夢への入り口となる進学をめざすために、チャレンジする意欲を醸成し、粘り強く取り組む力を養う。

ア 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。

(3) 「夢のとびらプロジェクト～2nd」を継続し、生徒が活用する進路指導室の形成を進める。

※国公立大学の受験者数 R4年度には60人をめざす。(H29:25人、H30:40人、R1:47人)

※国公立大学及び関西5私立大学(関学・関大・同志社・立命・近大)への現役進学者数を100人に引き上げる。(H29:73人、H30:52人、R1:84人)

2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上

(1) 生徒に自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。

ア 志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での学習(自習力)を充実させる。

イ 自分の意見・考えをまとめる力、自分を表現し伝える力を育成する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。

ア 大学入試改革に対応するためだけでなく、社会に出てから求められる力としても重要視し、ICTを活用した効果的・効率的な授業、生徒が積極的にアウトプットする機会を活かす授業の推進を図る。

イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業が主催する研修・講演会等への積極的な参加により、新たな指導について研究する。

(3) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。

ア 全ての教科で観点別評価による「指導と評価の年間計画(シラバス)」を作成する。

3 心豊かでたくましい人間性の育成

(1) 他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。

ア 生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。

イ 学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。

ウ 海外研修と海外からの留学生の招聘を実施し、国際交流を通じて多様な文化を体験し国際的な視野を育成する。

(2) 情報リテラシー及び情報モラルを育成する。

ア インターネットを効果的に正しい使用ができるように、専門家による指導を含めた具体的な指導を継続させる。

(3) 生徒が安心できる学校生活を確保し、基本的な生活習慣の定着・改善を図るとともに、規範意識を向上させる。

ア 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、生徒が相談しやすい指導体制を充実させる。

イ 生徒の基本的な生活習慣(あいさつ、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動及び授業態度等)の改善・定着に取り組む。

4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり

(1) 本校の教育活動の内容について積極的に情報を発信し、地域に活動の理解を広げるとともに、魅力ある学校となる。

ア 学校説明会の実施方法の工夫として在校生による中学校訪問を定着させ、生徒の成長を発信する。

イ HPの充実を図り、魅力を発信する。

ウ メール配信を定期的実施し、保護者との連携を深める。

(2) 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。

ア 授業や部活動、生徒会活動などとおして、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。

イ 裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

ウ 地域と連携した防災教育の充実を図る。

5 校務の効率化

(1) 部活動指導を効率的に行い、長時間勤務の縮減を図る。(2) 各分掌、学年での年間業務を整理する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
希望する進路を実現させるための進路指導の確立 1 生徒が夢と志を抱き、	(1) キャリア教育充実と具体化 ア 3年間の進路指導計画の修正を図る。 生徒が主体的に進路を実現するように指導	(1) ア・個別のガイダンスを展開し学年全体・学校全体で長所や課題を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・センター試験に代わる共通テストへの移行に伴い、私立大学入試対応も含めてリキュラムの見直しを進める。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校で将来の生き方について考える機会がある」 肯定的回答 91%(R1 89%) ・カリキュラム改正を行ったかどうか	
	(2) チャレンジする力と粘り強さの育成 ア 行きたい大学へ進学するためのガイダンス	(2) ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明するとともに、3点(起床・自宅学習開始時刻・就寝)を自律的にチェックさせる。 ・1年時に大学訪問し、大学のイメージを具体的に示す。 ・成績及び進路に関して教科担当者による面談を実施する。	(2) ア・学校教育自己診断(生徒)「進路についての情報を提供される」肯定的回答 90%(R元 88%) ・国公立大学受験者数 50人(R1 47人) ・国公立及び関西5大学への現役合格者 90人(R1 84人)	
2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上	(1) 学習意欲の向上 ア 必要な学力の獲得と授業第一主義の確立、そして自学自習の充実 イ 自分の意見・考えをまとめる力と自分を表現し伝える力の育成	(1) ア・模擬試験の結果を通して全国での自分の実力を認識させ効果的な学習を支援する。 ・自習室の活用を推進し、自学自習を支援する。 イ・論理的思考力・発信力・課題解決力を育成する。 ・授業の中で、ディベートやプレゼンテーションをはじめとした手法も用いて「考え、表現する力」を養成する。	(1) ア・授業アンケート「集中して授業を聞く」 肯定的回答 90%(R1 年度 88%) ・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業は分かりやすい」肯定的回答 72%(R1 69%) イ・学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」 肯定的回答 73%(R1 71%)	
	(2) 授業改善 ア 大学入試改革へ対応するため ICTを活用した効果的・効率的な授業の推進 イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業等が主催する研修・講演会への参加	(2) ア・大学入試改を把握し、変化に対応できるよう授業を改善する。 ・Web で全国の先進事例を学び、効率的に授業改善を進める。 イ・研修内容を発表する機会をつくり、共有を積極的に進める。	(2) ア・授業アンケート「授業に興味・関心」 肯定的回答 78%(R1 76%) ・ICTを活用した授業の教員実施率 90%(R1 87%) イ・年2回の授業研究週間と研究協議の実施	
3 心豊かでたくましい人間性の育成	(1) 他者理解と多様性の尊重 ア 感性に訴えるプログラムの提供 イ 各種行事への積極的な参加 ウ 国際交流による国際的な視野の育成	(1) ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。 イ・地域の団体や幼稚園、専門学校等と連携し、ボランティア活動やインターンシップ等への積極的な参加を促す。 ウ・夏季に10日間オーストラリアにて語学研修継続実施 参加者が有意義と感じるプログラム計画	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」肯定的回答 85%(82%) イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」肯定的回答 88%(R1 86%) ウ・参加者アンケートの回答 「十分に満足」65%(R1 63%) 「参加して自分が変わった」50%(R1 46%)	
	(2) 情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア 生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実践	(2) ア・SNS等の活用について、教科「情報」の授業に加え、専門家を招聘して全生徒に講義や講演を行う。	(2) ア・専門家による講義や講演の回数 講演実施 1回維持	
	(3) 安心できる学校生活の確保と基本的生活習慣の定着・改善を図り規範意識向上 ア 教員の寄り添い姿勢充実により相談体制を充実 イ 基本的生活習慣の改善と定着	(3) ア・学年及び委員会など校内の組織間及び外部機関や中学校との連携を強化して、生徒情報の共有に努め、生徒支援体制の充実を図る。 ・教育相談委員会を核とし、スクールカウンセラーの指導・協力のもと、ケース会議の開催などによりメンタル面で課題を抱える生徒を支援する。 イ・遅刻数を減少させるために生徒会からの発信を強化する。	(3) ア・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」 肯定的回答 73%(R1 70%) イ・遅刻数の前年度より減少させる (R1 2212回)	
4 地域に開かれた学校づくり 魅力ある学校づくり	(1) 本校の教育活動の積極的な情報発信 ア・在校生(1年生)の中学校訪問 イ・HPの充実	(1) ア・在校生(1年生)による中学校訪問を実施し、生徒の成長や生の声を提供して本校の魅力を発信する。 イ・HPの更新を行い、閲覧者数を増加させる。	(1) ア・生徒(1年生)の出身中学校訪問を90%以上 44期生は65中学校より入学 イ・新規 ホームページの閲覧件数増 5000回以上 (HPを再構築したため、R1は測定不可)	

	<p>(2) 地域との交流・連携の推進 ア 地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進</p>	<p>(2) ア・裏山等の刀根山の特徴を活かし地域連携を推進する。 ・地域の学校や福祉施設等との連携事業や地域との防災行事などに取り組む。 ・生徒のボランティア活動をサポートする。</p>	<p>(2) ア・裏山の活用状況 ・地域行事等への参加回数の増 令和元年度を取組を維持する。 6回 (R1 14回) 感染症の影響のため</p>	
5 校務の効率化	<p>(1) 時間外勤務時間の縮減と職場環境の改善</p>	<p>(1) ・部活動に係る活動方針を遵守し、効率的な指導を実施</p>	<p>(1) ・年間活動における休養日全クラブ 105 日以上</p>	
	<p>(2) 各分掌、学年での年間業務を整理する。</p>	<p>(2) ・年間業務を一覧表にして、業務の効率化を検討する。</p>	<p>(2) ・ストレスチェック総合リスクを下げる。 111 以下に (R1 111)</p>	